

## 観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和5年 1月 13日

### 1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO <b>地域DMO</b>	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人くらわんか観光マネジメント	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 大阪府枚方市	
所在地	大阪府枚方市藤阪東町4-1-56	
設立時期	令和5年1月12日	
職員数	5人【常勤2人、非常勤3人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者）	（氏名） 井關 拓史 （出身組織名） （株）BUG SOLU 代表取締役	一般社団法人水都くらわんか花火大会の代表理事として、地域の花火大会をゼロから作り上げる。観光に関わる関係各所との繋がりが豊富である。コロナ禍においては、地域のデリバリーサービスを立ち上げ、その他地域の様々なイベントの開催をサポートしている。
データ収集・分析等の専門人材（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー）	（氏名） 小野島 颯馬 （出身組織名） （株）BUG SOLU 取締役	株式会社BUG SOLUの取締役兼CMO。また個人事業主としてデザイン業も行っている。数字とデザインの両面を活かし、特にオンラインでのマーケティングやプロモーションの知見が深い。
財務責任者（CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー）	（氏名） 河本 昌信 （出身組織名） 一般社団法人古民家再生協会大阪	河本工業株式会社で常務取締役として枚方で8年間勤務 また全国空き家アドバイザー協議会大阪府枚方支部の事務局長として活動している。持続可能な運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行う。
プロモーション、旅行商品造成・販売の責任者	（氏名） 古藤 幸大 （出身組織名） （株）ジャルパック	株式会社ジャルパックで23年間勤務。商品造成・企画、手配、予約、旅行会社営業の経験をもとに、現在は新規事業部門を担当し、自治体における地域再生計画に基づく、交付金事業の受託業務を複数担当。着地型ビジネスモデルの構築を経験。
実務担当者	（氏名） 丸山 和代 （出身組織名）一般社団法人古民家再生協会大阪	河本工業株式会社で設計、経理、現場管理を22年間担当し勤務 また空き家アドバイザー協議会大阪府枚方支部で事務次長として活動している。円滑な活動のため実務を担当。

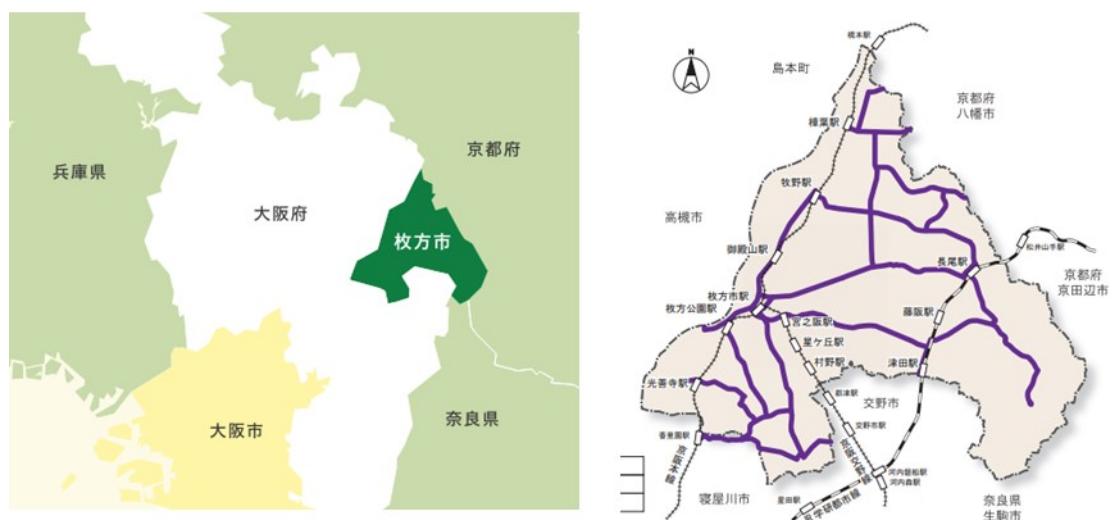
(別添) 様式 1

<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<p>大阪府枚方市観光にぎわい部観光交流課（市全体の観光振興及び誘客促進）</p>						
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>京阪ホールディングス株式会社（一次交通）          株式会社京阪レジャーサービス（ひらかたパーク運営会社）（着地型旅行商品造成、イベント協力）          枚方信用金庫（事業推進のための資金調達に関する助言及び協力）          株式会社マルキン（ひらかたサンプラザホテル事業主）（観光客受入）          枚方文化観光協会（誘客推進、情報発信等連携）          北大阪商工会議所（情報発信、イベント開催等連携）          株式会社 morondo（枚方つーしん運営会社）（情報発信、宣伝告知）</p>						
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>【該当する登録要件】          ②DMO 組織内に関係者で構成するメンバーによるワーキンググループを設置。第 1 回協議会を令和 5 年 1 月 10 日に実施し、当 DMO について関係者に説明、協力体制を確認済み。          （概要）多様な関係者や観光地経営に直結する地域のコアメンバーを軸として戦略の策定や役割分担と KPI の共有を図り、PDCA サイクルの推進を図っていく。DMC 組織内に専用連絡ツールを構築し、組織内コミュニケーションを迅速かつ密に取っている。</p>						
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>住民参加型のシンポジウムを開催。          住民意識の向上と、観光市場活性化のための各種イベントの実施や、市の広報を通じた情報発信等、地域住民に DMO の理解を得る活動を行う。          あわせて、くらわんか観光マネジメント公式の Facebook を活用し、月に 1 回更新を行い、枚方住民へ観光やイベント情報などの情報提供、着地型コンテンツを中心とした発信を実施する。</p>						
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>（活動の概要）新規設置法人のため実績はないが、代表者 井關 拓史氏が手掛けた「水都くらわんか花火大会」開催について以下記載する。</p> <table border="1" data-bbox="379 1223 1350 1984"> <thead> <tr> <th data-bbox="387 1223 563 1267">事業</th> <th data-bbox="571 1223 1342 1267">実施概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="387 1279 563 1704"> <p>情報発信・プロモーション</p> </td> <td data-bbox="571 1279 1342 1704"> <p>「水都くらわんか花火大会」                      実施日：2022年9月4日                      当 DMO 代表者である井關氏が、2015 年から毎年 9 月第 1 週に花火大会を主催・実施しており、今年で 8 回目の開催となる。枚方市民及び近隣の住民にとって、8 年目のイベントのため、認知度は非常に高く、大規模な費用をかけて宣伝告知する必要がないレベルまで達しているイベントである。（専用 HP と SNS での宣伝告知、枚方市役所広報には掲載いただいた）                      花火大会会場近隣にお住いの住民の方に対するご案内の意味で、京阪電鉄車内中吊り広告、駅構内へのポスター掲示を実施した。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1715 563 1973"> <p>受入環境の整備</p> </td> <td data-bbox="571 1715 1342 1973"> <p>大会開催初年度（2015 年）は、花火大会開催に賛同していただく企業や関係者、運営をお手伝いいただく方々への説明や、資金集めの対応が非常に難しく、花火大会開催の実現は不可能だと思われる方が多かった。開催者としてどのように実現するかについて、真摯に説明・表現をすることで関係者の理解を得ることができ、初年度は 75 発を打ち上げることができた。実際に大会を開催することで、関係者への説得力が増し、次年度以降の開催につなげることが可能となった。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	事業	実施概要	<p>情報発信・プロモーション</p>	<p>「水都くらわんか花火大会」                      実施日：2022年9月4日                      当 DMO 代表者である井關氏が、2015 年から毎年 9 月第 1 週に花火大会を主催・実施しており、今年で 8 回目の開催となる。枚方市民及び近隣の住民にとって、8 年目のイベントのため、認知度は非常に高く、大規模な費用をかけて宣伝告知する必要がないレベルまで達しているイベントである。（専用 HP と SNS での宣伝告知、枚方市役所広報には掲載いただいた）                      花火大会会場近隣にお住いの住民の方に対するご案内の意味で、京阪電鉄車内中吊り広告、駅構内へのポスター掲示を実施した。</p>	<p>受入環境の整備</p>	<p>大会開催初年度（2015 年）は、花火大会開催に賛同していただく企業や関係者、運営をお手伝いいただく方々への説明や、資金集めの対応が非常に難しく、花火大会開催の実現は不可能だと思われる方が多かった。開催者としてどのように実現するかについて、真摯に説明・表現をすることで関係者の理解を得ることができ、初年度は 75 発を打ち上げることができた。実際に大会を開催することで、関係者への説得力が増し、次年度以降の開催につなげることが可能となった。</p>
事業	実施概要						
<p>情報発信・プロモーション</p>	<p>「水都くらわんか花火大会」                      実施日：2022年9月4日                      当 DMO 代表者である井關氏が、2015 年から毎年 9 月第 1 週に花火大会を主催・実施しており、今年で 8 回目の開催となる。枚方市民及び近隣の住民にとって、8 年目のイベントのため、認知度は非常に高く、大規模な費用をかけて宣伝告知する必要がないレベルまで達しているイベントである。（専用 HP と SNS での宣伝告知、枚方市役所広報には掲載いただいた）                      花火大会会場近隣にお住いの住民の方に対するご案内の意味で、京阪電鉄車内中吊り広告、駅構内へのポスター掲示を実施した。</p>						
<p>受入環境の整備</p>	<p>大会開催初年度（2015 年）は、花火大会開催に賛同していただく企業や関係者、運営をお手伝いいただく方々への説明や、資金集めの対応が非常に難しく、花火大会開催の実現は不可能だと思われる方が多かった。開催者としてどのように実現するかについて、真摯に説明・表現をすることで関係者の理解を得ることができ、初年度は 75 発を打ち上げることができた。実際に大会を開催することで、関係者への説得力が増し、次年度以降の開催につなげることが可能となった。</p>						

	<p>(定量的な評価)</p> <p>水都くらわんか花火大会の来場者数は、枚方会場で18万人、高槻会場7万人、合計約25万人という一大イベントとなった。これは当初の想定を大きく上回る結果となり、専用HP・SNSでの告知、大会ボランティアを含む、関係者との連携による受入環境整備の結果と考える。花火大会開催により、枚方市への訪問人口の大幅な拡大と地域消費が行われ、地域の活性化に大きく貢献することができた。</p> <p>当花火大会開催の主旨として、20年前は毎年開催されていた大会が開催されなくなったことで、枚方市には全国区の知名度を持つコンテンツが無い状態となっていた。この状況を打破するため、花火大会の復活を検討し、地域住民からも復活を望む声が非常に多いことから大会を開催。8年目の現在では、運営チームに参加するために転職・転居した方もいるほど、知名度や魅力度が高いイベントとなった。2022年の花火大会では4,995発を打ち上げたが、この数は枚方市・高槻市での出生児の数であり、この数が年々減少することは、人口減少というメッセージを込めている。このメッセージに、観覧される方に気づいていただき、次の大会では打ち上げ数を増加させるためにどのような取り組みが必要かについて、地域に住む方も広く巻き込んで展開していきたい。</p> <p>(DMO 組成までの経緯)</p> <p>令和4年3月から組成に向けて準備を開始し、枚方市との協議の元、全国古民家再生協会大阪支部が中心となり、準備室を開設。連携する関係者とDMO組成についての事前協議・確認を複数回実施し、取り組み内容、方向性の合意をもとに一般社団法人くらわんか観光マネジメントの設立に至った。</p>
<p>実施体制</p> <p>※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること(別添可)。</p>	<p>(実施体制の概要)</p> <p>くらわんか観光マネジメントが、行政と協力し、各事業者(宿泊事業者、交通事業者、イベント事業者など)と連携した運営を実施。</p> <p>枚方市内に点在している各観光素材(歴史・文化、公園・自然、イベント、商業施設など)を、エリア(面)での展開をしていくことにより、認知度・知名度向上を図るとともに、枚方市全体での訪問人口拡大に取り組む。そのためには、DMOが中心となり、各素材の磨き上げとプロモーションを行い、各訪問客ターゲットに即した対策を実施していく。</p> <p>(実施体制図)</p>

## 2. 観光地域づくり法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

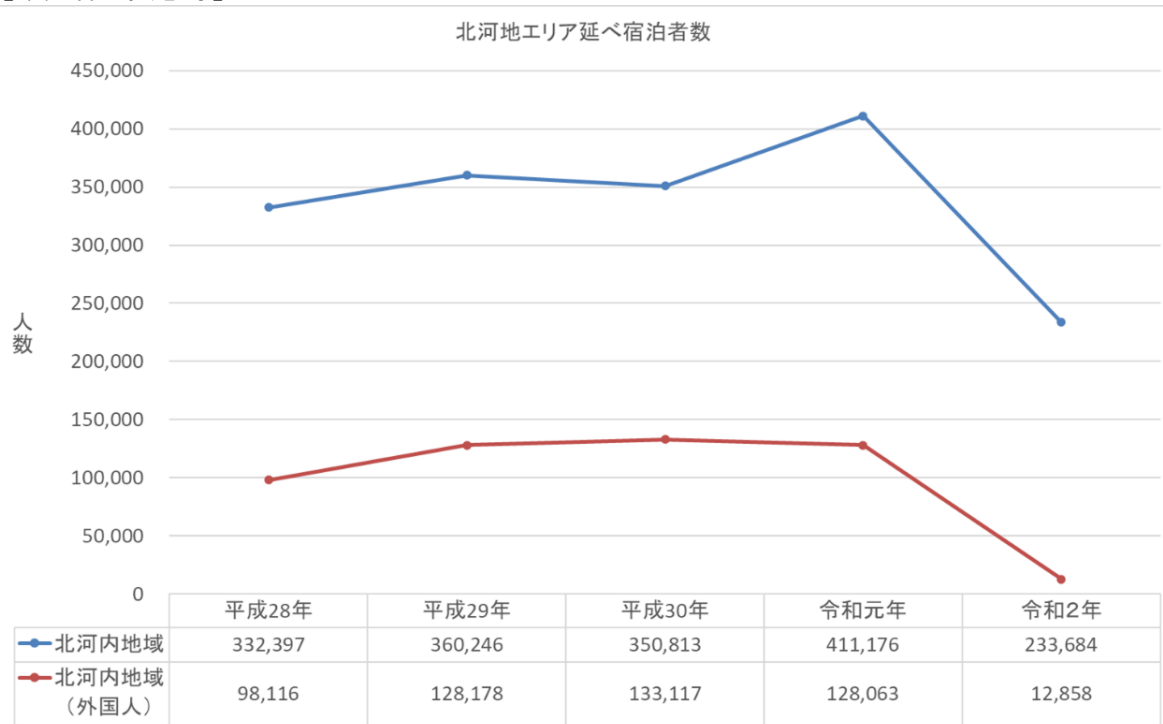


【区域設定の考え方】

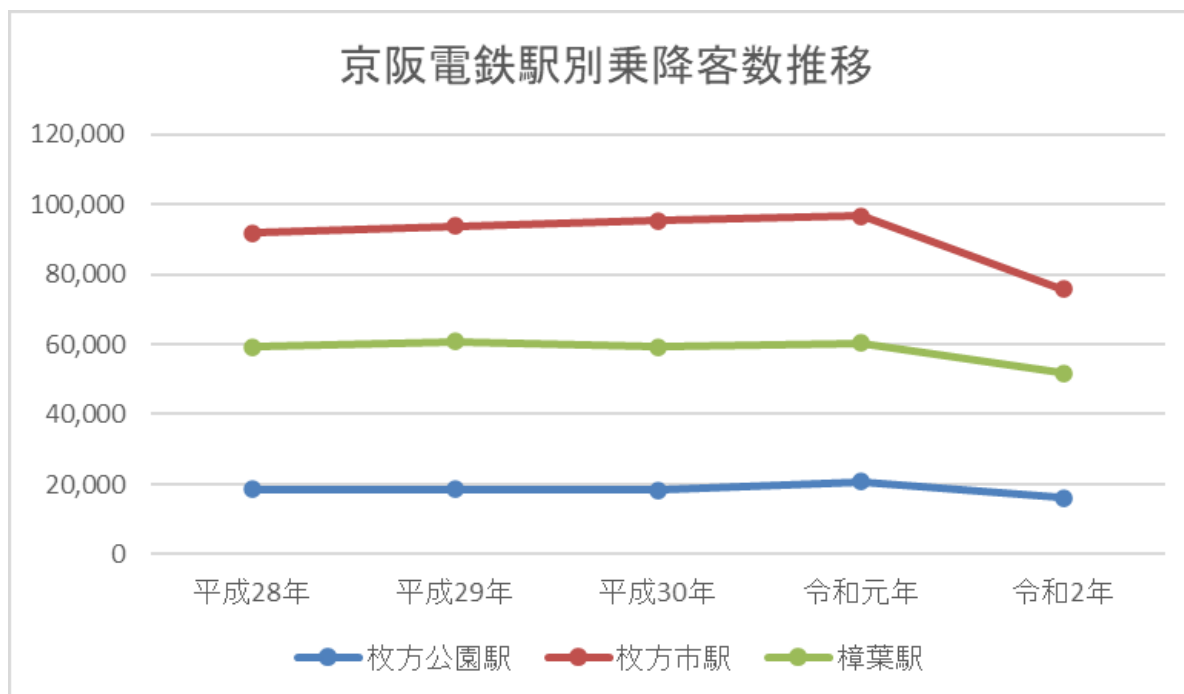
枚方市は大阪・京都の中間地点に位置し、交通アクセスの利便性に非常に優れている。その反面、枚方市には滞在せず、大阪・京都へ向かうための通過地点となってしまっている現状も否めない。枚方市都市計画マスタープランにおいても、枚方市を7つのエリア（北部・中部・中東部・中南部・東部・南西部・南部）に区分して策定されており、7つのエリアにはそれぞれ中心となる京阪電鉄やJR片町線（学研都市線）の駅が存在している。2025年の大阪・関西万博開催に向けて、「淀川舟運」を中心とした市内西部エリアの整備が進行中であり、海上輸送に伴う訪問人口の拡大が見込まれる。枚方市作成の「枚方市観光ロードマップ」でも示されているように、万博後も見据えた取り組みを継続的に実施していく必要があると考え、西部エリアだけではなく、市内各エリアに点在する観光素材を結び付け、面（エリア）として素材を磨き上げること及び、訪問客への宣伝告知によるエリア全体での周知度・認知度向上を目指すことが必要であることから、枚方市全域を設定することが適切と考える。

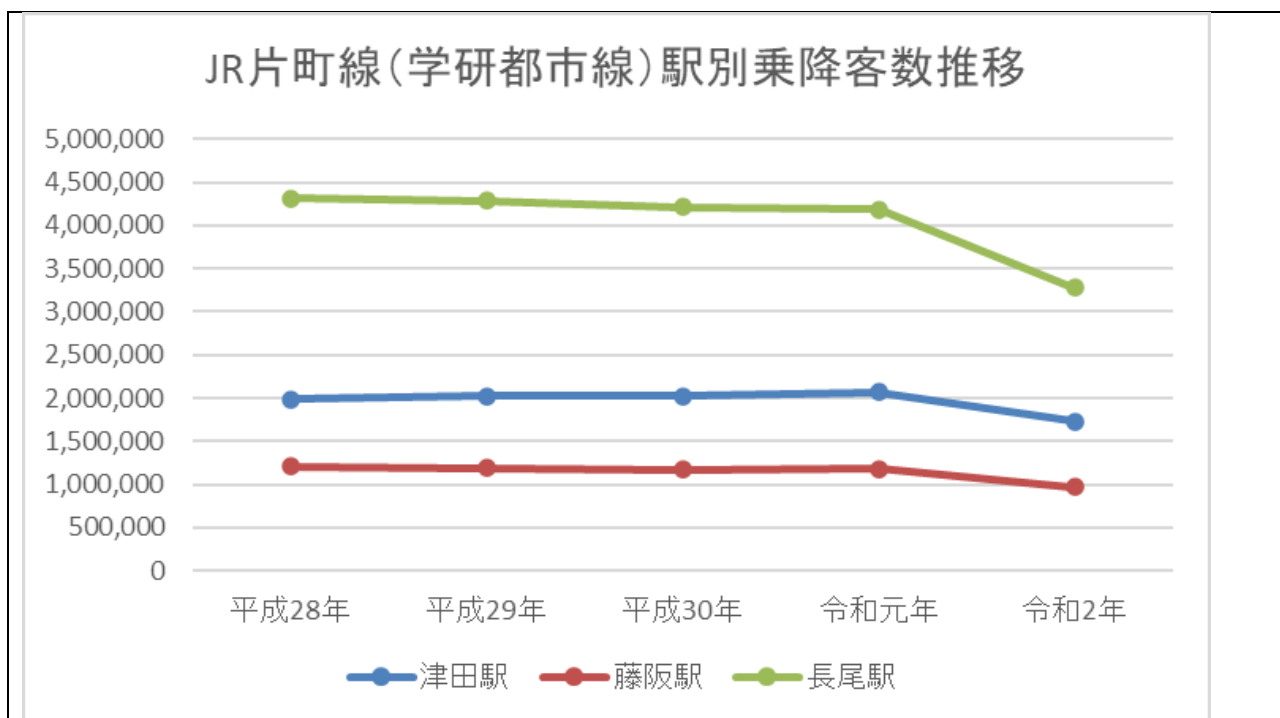
(別添) 様式 1

【観光客の実態等】



※北河地エリアは守口市・枚方市・寝屋川市・大東市・門真市・四條畷市・交野市となる。枚方市のみのデータが枚方市役所でも保有しておらず、入手出来ない。令和5年度より、枚方市役所が入手する大阪観光局の枚方市データを、当DMOにも共有いただく予定。





枚方市内に乗り入れている京阪電鉄・JR 片町線（学研都市線）の各駅の乗降客数は、令和元年度までは横ばい状態であったが、新型コロナウイルスの影響を受け、令和2年度に大きく減少傾向となっている。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

（公園・自然）

ひらかたパーク、山田池公園

（観光施設・歴史・文化）

枚方宿鍵屋資料館、淀川の舟運、旧田中家鋳物民俗資料館、禁野車塚古墳、牧野車塚古墳、百済寺跡、巖島神社末社春日神社本殿、交野天神社本殿・交野天神社末社八幡神社本殿、片埜神社本殿、樟葉台場跡

（商業施設）

枚方 T-SITE、くずはモール、ニトリモール枚方

（イベント、スポーツ）

- ・枚方宿くらわんか五六市（毎月第二日曜日開催。約 200 店舗が出店）
- ・水都くらわんか花火大会（2022 年 9 月に開催。約 25 万人を集客）
- ・枚方まつり（毎年 8 月開催）
- ・ひらかた菊フェスティバル（毎年秋頃開催）
- ・友好/交流都市物産展（毎年秋頃開催）
- ・新春走ろうかい（成人の日開催）

全国的に知名度が高い「ひらかたパーク」を中心に、歴史・文化を学ぶことができる枚方宿鍵屋資料館や旧田中鋳物民俗資料館があり、淀川の舟運や重要文化財である各神社など、観光コンテンツはあるが、場所が点在しているため、訪問客にとっての知名度が偏っている現状がある。そのため、点在する観光資源をエリアごとにまとめ、エリアとして訪問客へ宣伝告知する必要があると考える。

(別添) 様式 1

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

- 枚方市内の宿泊施設は3軒。(うち1軒は現在建設中)
1. ひらかたサンプラザホテル 72室
  2. ファミリーロジック旅籠屋・大阪枚方店 14室
  3. カンデオホテルズ 139室 ※令和5年度に竣工予定。

【利便性：区域までの交通、域内交通】



【外国人観光客への対応】

- ・枚方市役所ホームページの多言語対応化
- ・公共施設等の都市施設の案内・サイン等の多言語化の推進
- ・わかりやすい公共交通の利用環境の推進

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	行政によるWebアンケートツールを活用し統計を実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	行政によるWebアンケートツールを活用し統計を実施。
来訪者満足度	来訪者の満足(不満足)に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	行政によるWebアンケートツールを活用し統計を実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	行政によるWebアンケートツールを活用し統計を実施。
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Google analyticsを活用して実施。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	行政によるWebアンケートツールを活用して実施。

※令和5年度より枚方市役所が大阪観光局と連携し、上記データを入手予定。

## 4. 戦略

### (1) 地域における観光を取り巻く背景

枚方市の人口は平成 21 年をピークに減少に転じており、微減傾向が続いている。枚方市が実施した将来人口推計では、平成 25 年から令和 5 年までに約 14,400 人の減少、令和 25 年までに約 81,800 人の減少が予想されている。枚方市が抱える課題の一つに、大阪・京都の中間点という立地の問題がある。大阪・京都まで短時間でアクセスが可能という利点がある一方、好立地がゆえに枚方市が単なる通過点となっている現状があり、枚方市での消費や滞在につながりにくい状況となっている。この背景にはひらかたパークや枚方宿鍵屋資料館、淀川舟運を代表とする観光素材や、枚方 T-SITE、くずはモールといった商業施設があるが、枚方市内に点在しているため、個々の知名度はあるものの、周辺の施設・観光素材の認知度につながっておらず、訪問客は知名度が高いものに集中している状況がある。イベントについても、一過性イベントの展開が多く、継続的な集客につながっていない傾向にある。2025 年の大阪・関西万博開催に向け、また、万博後を見据えた枚方市への人流創出のため、枚方市の魅力向上を行うべく、観光地域づくり法人を中心として既存の観光資源の活用および磨き上げ、継続的な集客を実現できるイベントの開催等を実施することが重要である。

### (2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<b>強み (Strengths)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・大阪、京都の中間として交通アクセスが良い。</li><li>・総合文化芸術センターやひらかたパーク、パナソニックアリーナなど集客施設が集中している。</li><li>・淀川舟運に可能性がある。</li><li>・東部地域に自然豊かな里山がある。</li></ul>	<b>弱み (Weaknesses)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・大阪、京都の中間としてアクセスが良いために、通過点となる懸念がある。</li><li>・地域内連携が不足し、観光資源が孤立している。連携を図るための核となる組織がない。</li><li>・食、特産品が欠如しており、観光消費を促す仕掛けに欠ける。</li><li>・文化財などの資源を活用できていない。</li></ul>
外部環境	<b>機会 (Opportunity)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・2025 年に大阪・関西万博が開催される。特に淀川舟運については万博会場と淀川が船でつながる予定。これに向けて国交省が主導する協議会が設立され、沿川の連携が図られている。</li><li>・枚方市駅周辺の再開発が進められており、ホテルも建設される。</li><li>・インバウンドの回復が見込める。</li></ul>	<b>脅威 (Threat)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・淀川舟運は、天候や出水状況により欠航となることが多い。</li><li>・コロナ感染が再び拡大した場合、観光需要が落ち込む。</li></ul>

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。



(別添) 様式 1

(3) ターゲット

<p>○第1ターゲット層 枚方市近隣エリアの訪問客</p>
<p>○選定の理由 現在、枚方市近隣の住民は土日・祝日などを京都や大阪といった大規模かつ知名度が高い観光地への訪問がメインとなり、枚方市への訪問人口が減少傾向にある。休日に遊びに訪れる場所として枚方市を選んでいただくことにより、枚方市への訪問人口・交流人口を拡大していきたい。</p> <p>○取組方針 枚方市近隣の住民が、休日に気軽に遊びに訪れる場所とするため、満足度調査などの分析から、既存の観光コンテンツを魅力ある内容に磨き上げを行う。また、イベントの定期的な実施および情報発信や告知により、枚方市へ訪れるきっかけを創出し、枚方市周辺を中心に展開していく。</p>
<p>○第2ターゲット層 県外、日本国内遠方からの訪問客、修学旅行の誘致</p>
<p>○選定の理由 枚方市近隣の訪問客が増加することにより、枚方市の知名度・認知度は上昇していくため、訪問いただく方の動機を「気軽に訪れる」から、「枚方市に来ることを目的」に昇華させていきたい。</p> <p>○取組方針 第1ターゲットを獲得する中で、枚方市の観光コンテンツ、各種イベントは訴求力のあるものとなっていく。磨き上げた観光コンテンツやイベントを目的とした訪問客の拡大に向け、しっかりとした情報発信と、満足度調査の分析による不足点・改善点を洗い出し、より高品質な素材の提供を実施できるスキームを構築していく。2023年度のカンデオホテルズの開業後は、宿泊施設が拡充されるため、修学旅行の誘致も行い、行先として選ばれる場所となるために、継続的な改善を行っていく。</p>
<p>○第3ターゲット層 インバウンド</p>
<p>○選定の理由 新型コロナウイルスの鎮静化が進む中、インバウンド需要は高まってきており、2025年の大阪・関西万博開催時には訪問人口が一気に拡大することが見込まれる。万博開催にあわせて、大阪湾から淀川上流まで淀川舟運の周航を可能にするべく、淀川大堰開門工事が進められており、完成後は万博会場と枚方市を結ぶ海上交通が可能となる。</p> <p>○取組方針 万博開催時における、インバウンド需要の確実な取り込みのため、開催前となる2023年のカンデオホテルズ開業による宿泊客受入数拡大を基軸に、枚方市への訪問目的となる観光コンテンツの磨き上げを実施していく。また、万博開催時は都市部周辺の宿泊施設が飽和状態になるため、受け皿としての枚方市宿泊施設利用も想定している。万博開催前、開催時、そして開催後も見据え、利便性が向上した海上交通による枚方市訪問機会の増加を確実に訪問人口増加につなげるため、各種観光資源との一体感を醸成し、提供していく。</p>

## (4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	「楽しい」「おいしい」あふれる京阪奈のど真ん中
②コンセプトの考え方	大阪、京都、奈良の中間に位置する枚方市。淀川舟運の中継港として栄えた歴史を有する枚方宿、東部の自然、百済寺跡、樟葉台場などの史跡や100万人以上の集客力を持つひらかたパーク、水辺アクティビティを楽しめる広大な淀川河川公園、枚方T-SITE やくずはモールといった大規模商業施設、パナソニックパンサーズ（男子バレーボールチーム。2022-2023 は最上位のV1 リーグに所属）など多様な地域資源を有する。また、個性が光る飲食店が豊富に存在し、年間を通して様々なイベントが市民有志により開かれている。これらの地域資源を磨きつなぐことで、市民をはじめ近隣住民の日常を多様な「楽しい」「おいしい」で彩ることを目指す。また、京阪電鉄、JR学研都市線、淀川舟運といった一大観光地とのアクセスを活かし、インバウンド向けのコンテンツを造成、PR することで枚方への来訪を実現していく。

## 5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	<p>戦略会議、情報交換会、事業報告会の実施、HPやSNSによる情報発信</p> <p>DMOを中心とした、地域の関連事業者を集めた情報共有の場を3か月に1回程度設ける。</p> <p>あわせて、活動報告書（意義・内容・成果、KPIの達成状況や各種取組の分析結果等を記載）を作成し、HPで公表する。</p>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	満足度調査やマーケティング調査を実施し、観光コンテンツや各種イベント内容のブラッシュアップを継続的に実施していく。 行政と連携し、データの提供をいただき、結果をもとに、改善・向上を効率的かつ継続的に図る仕組み作りを行う。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	<p>DMOが携わる地域内の情報を一元的にHPやSNSを利用した効果的なプロモーションを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光素材についてのHPやSNSでの発信</li> <li>・DMOが関わるイベントのHPやSNSでの発信</li> </ul>

## 6. KPI (実績・目標)

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

### (1) 必須KPI

指標項目		2019	2020	2021	2022	2023	2024
		(R1) 年度	(R2) 年度	(R3) 年度	(R4) 年度	(R5) 年度	(R6) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	( )	( )	( )	( )	158	166
	実績	158 ( )	62 ( )	60 ( )	( )	( )	( )
●延べ宿泊者数 (人)	目標	( )	( )	( )	( )	26,344	27,671
	実績	26,344 ( )	10,356 ( )	9,968 ( )	( )	( )	( )
●来訪者満足度 (%)	目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	実績	( )	( )	( )	( )	( )	( )
●リピーター率 (%)	目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	実績	( )	( )	( )	( )	( )	( )

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

### 目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

#### 【検討の経緯】

「観光庁資料 宿泊旅行統計調査」「大阪いらっしやいキャンペーン 2022 アンケート結果分析資料」「大阪府観光入込調査報告書」の数値を踏まえ、組織内で検討を行った。

#### 【設定にあたっての考え方】

##### ●旅行消費額

枚方市の旅行消費額実績データは取得できなかったため、「大阪いらっしやいキャンペーン 2022 アンケート結果分析資料」「大阪府観光入込調査報告書」を参照した。(令和5年度より枚方市データを枚方市役所にて大阪観光局より入手、当DMOにも共有いただき、分析を実施する) 枚方市を含む北河地地域の旅行消費総額平均は6,015円であり、この金額に宿泊者数を乗じた数値にて過去実績を策定。目標として、令和5年度に令和元年の数字まで回復させ、令和6年度には前年比105%にて目標値を設定。

##### ●延べ宿泊者数

枚方市単体の年間宿泊者数のデータは取得できず、「観光庁資料 宿泊旅行統計調査」を参照し、令和4年9月分の大阪府ビジネスホテルの稼働率推移をもとに、過去実績を算出。(旅行消費額同様に、令和5年度より枚方市データを入手し、分析を実施する) 枚方市の主たる宿泊施設「ひらかたサンプラザホテル」の送客室72室をビジネス需要8割(シングル利用)、観光需要2割(ツイン利用)として、稼働率を乗じて算出した。目標値は旅行消費額と同レベル推移を目指す。令和5年

(別添) 様式 1

度中に竣工予定の「カンデオホテルズ」増室分は目標には織り込まず、営業開始後の活動報告にて目標を修正することとしたい。

●来訪者満足度

枚方市単体のデータが取得できず、大阪府もしくは北河地地域としてのデータも入手できなかったため、過去実績および目標値が設定できていない。令和5年度より、枚方市役所にて大阪観光局より各種データを手いいただき、当DMOと共有いただける予定となっており、また、当DMO独自にアンケート調査実施などにてデータ入手の予定であるため、令和5年度中に目標値を設定していく。

●リピーター率

来訪者満足度同様に、枚方市単体および大阪府、北河地地域としてのデータ入手ができていないため、過去実績および目標値設定ができていない。令和5年度より入手予定の大阪観光局データと当DMO独自に実施予定であるアンケート調査のデータをもとに、令和5年度中に目標値を設定していく。

(2) その他の目標

指標項目		2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度
●住民満足度 (%)	目標	( )	( )	( )	( )	45	48
	実績	40 ( )	— ( )	— ( )	43.5 ( )	( )	( )
●宿泊施設の稼働率 (%)	目標	( )	( )	( )	( )	81.4	85.5
	実績	81.4 ( )	32.0 ( )	30.8 ( )	( )	( )	( )
●京阪鉄道枚方市内主要3駅 (枚方公園・枚方市・樟葉)の合算年間乗降客数 (人)	目標	( )	( )	( )	( )	170,000	187,000
	実績	177,747 ( )	143,665 ( )	( )	( )	( )	( )
●JR片町線(学研都市線)枚方市内主要3駅 (津田・藤阪・長尾)の合算年間乗降客数 (千人)	目標	( )	( )	( )	( )	7,000	7,800
	実績	7,432 ( )	5,980 ( )	( )	( )	( )	( )

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値  
※各指標項目の単位を記入すること。

## 指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

### 【検討の経緯】

来訪者満足度の向上だけを目的とせず、枚方市住民にも当 DMO の取組みを理解していただき、当 DMO の活動が地域の発展への貢献につながっていることの指標として、住民満足度を設定する。

### 【設定にあたっての考え方】

#### ●住民満足度

枚方市が実施する「市民意識調査報告書」の結果をもとに、枚方市基本計画における重点施策項目のポイント数にて判断する。目標として毎年 3 ポイントずつの改善を目指したい。

#### ●宿泊施設の稼働率

令和 5 年度には令和元年までの稼働率まで立て直しを実施し、令和 6 年度では前年比 105% を目指した目標とする。令和 5 年度中にカンデオホテルズが竣工した場合、令和 5 年度の活動報告にて目標修正を行う予定。

#### ●京阪鉄道/JR 片町線枚方市内主要駅の年間乗降客数

枚方市への流入は鉄道に限定されないと想定し、令和 5 年度の目標は令和元年比約 95% を目指す。令和 6 年度に令和元年比 105% の達成を目指す。

## 7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後 3 年間について、計画年度毎に (1) 収入、(2) 支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去 3 年間の実績も記入すること。

### (1) 収入

年(年度)	総収入(円)	内訳
2019(R1) 年度	(円)	
2020(R2) 年度	(円)	(円)
2021(R3) 年度	(円)	(円)
2022(R4) 年度	(円)	(円)
2023(R5) 年度	50,000,000(円)	【交付金採択に基づく受託事業収入】30,000,000円 【収益事業収入】20,000,000円
2024(R6) 年度	60,000,000(円)	【交付金採択に基づく受託事業収入】36,000,000円 【収益事業収入】24,000,000円

(別添) 様式 1

## (2) 支出

年(年度)	総支出	内訳
2019 (R1) 年度	(円)	
2020 (R2) 年度	(円)	(円)
2021 (R3) 年度	(円)	(円)
2022 (R4) 年度	(円)	(円)
2023 (R5) 年度	49,100,000 (円)	【一般管理費】 14,400,000 円 【交付金採択に基づく受託事業経費】 20,000,000 円 【収益事業経費】 10,000,000 円 【コンテンツ開発(観光資源の磨き上げ)】 2,500,000 円 【マーケティング】 1,200,000 円 【販売費】 1,000,000 円
2024 (R6) 年度	58,900,000 (円)	【一般管理費】 14,400,000 円 【交付金採択に基づく受託事業経費】 23,000,000 円 【収益事業経費】 11,500,000 円 【コンテンツ開発(観光資源の磨き上げ)】 4,000,000 円 【マーケティング】 3,000,000 円 【販売費】 3,000,000 円

## (3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・くらわんか観光マネジメント主催、共同開催イベントでの収入
  - ・イベント開催者へのサポート実施における収入
  - ・交付金採択後の受託事業収入(令和5年度の事業内容は枚方市と継続協議中)
  - ・観光コンテンツの磨き上げによる、着地型旅行商品の造成・販売
  - ・行政、関係団体等との連携による、修学旅行の誘致等
- 以上の取組みを実施し、安定的な運営資金を確保できる体制を構築する。

## 8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

大阪府枚方市は、一般社団法人くらわんか観光マネジメントを枚方市における地域 DMO として登録したいので、一般社団法人くらわんか観光マネジメントとともに申請します。

(別添) 様式 1

**9. マーケティング・マネジメント対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）**

重複しない

**10. 記入担当者連絡先**

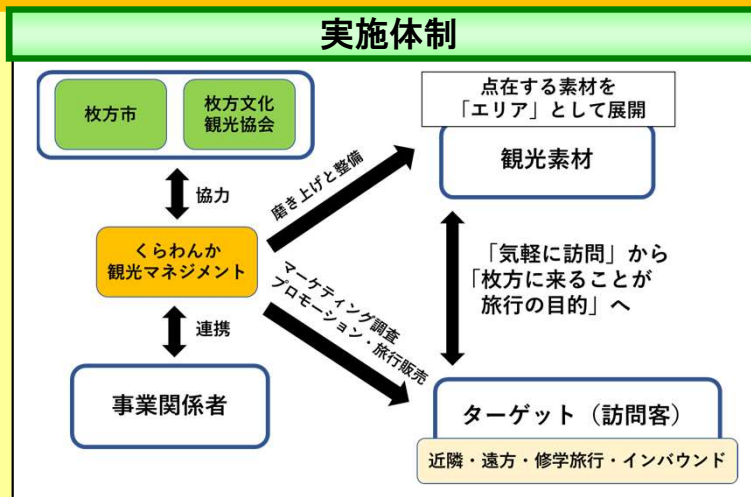
担当者氏名	井關 拓史
担当部署名（役職）	一般社団法人くらわんか観光マネジメント 代表理事
郵便番号	573-0153
所在地	大阪府枚方市藤阪東町4-1-56
電話番号（直通）	090-1968-6145
FAX番号	—
E-mail	info@bugsolu.com

担当者氏名	古藤 幸大
担当部署名（役職）	株式会社ジャルパック新事業企画部 新事業企画グループ 統括マネージャー
郵便番号	140-8658
所在地	東京都品川区東品川2-4-11
電話番号（直通）	080-4144-0517
FAX番号	—
E-mail	koto.yx5r@jal.com

**11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先**

都道府県・市町村名	大阪府枚方市
担当者氏名	生地 進歩
担当部署名（役職）	観光にぎわい部 観光交流課（係長）
郵便番号	573-8666
所在地	大阪府枚方市大垣内町2丁目1番20号
電話番号（直通）	072-841-1357
FAX番号	072-841-1278
E-mail	sanbun@city.hirakata.osaka.jp

【区域】大阪府枚方市  
【設立日】令和5年1月12日  
【登録日】令和5年3月31日  
【代表者】井關 拓史  
【マーケティング責任者(CMO)】小野島 颯馬  
【財務責任者(CFO)】河本 昌信  
【職員数】5人(常勤2人(正職員5人))  
【連携する主な事業者】  
京阪ホールディングス株式会社  
株式会社京阪レジャーサービス  
枚方信用金庫、株式会社マルキン  
枚方文化観光協会、北大阪商工会議所  
株式会社morondo



### マーケティング・マネジメントする区域

【主な観光資源】  
(公園・自然)  
ひらかたパーク、山田池公園

(観光施設・歴史・文化)  
淀川舟運、枚方宿鍵屋資料館  
百済寺跡、樟葉台場跡

(商業施設)  
枚方T-SITE、くずはモール

A map of Hirakata City showing various landmarks and transportation routes. Key locations include Hirakata Park, Yamada-ike Park, Hirakata T-SITE, and Kusuhama Mall. The map also shows major roads and the city's location relative to surrounding areas like Osaka and Kyoto.

### 合意形成の仕組み

【該当する登録要件】②  
【概要】多様な関係者や観光地経営に直結する地域のコアメンバーを軸として戦略の策定や役割分担とKPIの共有を図り、PDCAサイクルの推進を図っていく。DMO組織内に専用連絡ツールを構築し、組織内コミュニケーションを迅速かつ密に取っている。

### 戦略

【主なターゲット】  
1. 枚方市近隣エリアの訪問客  
2. 日本国内遠方の訪問客、修学旅行誘致  
3. インバウンド

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】  
1. 枚方市近隣の住民が、休日に気軽に訪れることができるよう、観光コンテンツの磨き上げと情報発信により、訪問機会を創生する。  
2. 訴求力のあるコンテンツの継続的な磨き上げと共に、満足度調査に基づく更なる改善と、積極的な告知・情報発信にて認知度を高める。  
3. 25年の大阪・関西万博を見据え、利便性の高まる淀川舟運の海上交通を有効利用。万博開催前・中・後を継続的に対応していく。

### KPI(実績・目標)

※()内は訪日外国人旅行者に関する数値

項目		2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度
旅行消費額 (百万円)	目標	( )	( )	( )	( )	158	166
	実績	158	62	60	( )	( )	( )
延べ宿泊者数 (人)	目標	( )	( )	( )	( )	26,344	27,671
	実績	26,344	10,356	9,968	( )	( )	( )
来訪者満足度 (%)	目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	実績	( )	( )	( )	( )	( )	( )
リピーター率 (%)	目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	実績	( )	( )	( )	( )	( )	( )

### 法人のこれまでの活動実績

「水都くらわんか花火大会実施」  
【情報発信・プロモーション】  
枚方会場18万人、高槻会場7万人、計約25万人の来場者という一大イベントとなった。2015年より継続的に開催することで、地域住民への知名度・魅力度は相当高いレベルとなっている。  
【受入環境の整備】  
2015年の第1回開催時は、大会開催に賛同いただく企業・関係者、運営の協力者への説明、資金協力を苦慮したが、実現方法を真摯に説明・表現し、実際に開催できたことで説得力を得ることができ、次回以降の開催へ関係者の強固な協力体制を構築できた。

### 観光関連事業者と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

関係者との、戦略会議、情報交換会、事業報告会の実施や、HPやSNSによる情報発信を実施。  
活動報告書の作成と、HPでの公表を行う。

### 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

【主な収入】  
・交付金採択に基づく受託事業 約30百万(R5年)  
・収益事業(イベント主催、着地型旅行商品造成/販売) 約20百万  
【自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針】  
・イベント主催、共同開催 ・イベント開催者へのサポート  
・交付金採択後の枚方市からの受託事業 ・観光コンテンツ磨き上げ